
不幸な1週間

hanarinn

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不幸な1週間

【Nコード】

N2318M

【作者名】

hanarinn

【あらすじ】

この話は不幸体質な女の子の1週間の出来ごとの話です！
先生と生徒の間の会話や悩みなどを書いていきたいと思えます！
誤字脱字が多いかとは思いますがよろしく願います。

自己紹介

はじめましてh a n a r i n nです。
ハナリン

初めての小説ですがよろしく願います。なお、おかしいところや間違っているところ、こんなものを書いてほしいなどがありましたら遠慮なく言ってくださいよろしくお願いします。

人物紹介

1、主人公・・・伊藤 凜華 《いとう りんか》
特技・・・受け身（転ぶことが多いのでいつの間にか身に付いた）

趣味・・・読書（ファンタジー系の本が好き）
年齢・・・15歳（高校1年生）
身長・・・150センチ
体重・・・45キログラム
夢・・・不幸体質が治ること！！

2、友達・・・佐々木 夢果 《ささき ゆめか》
特技・・・凜華を慰めること
趣味・・・漫画を描くこと
年齢・・・16歳（高校1年生）
身長・・・158センチ
体重・・・不明
夢・・・結婚すること

3、担任・・・田中 健斗 たなか けんと
特技・・・テストの採点をすばやくする終わらせること
趣味・・・天体観測

年齢 . . . 25歳
身長 . . . 160センチ
体重 . . . 70キロ
夢 . . . 生徒が全員無事に卒業すること

4、先生（体育） . . . 鈴木^{すずき} 智樹^{ともき}
特技 . . . 運動
趣味 . . . ランニング
年齢 . . . 28歳
身長 . . . 165センチ
体重 . . . 75キロ
夢 . . . いつか大きな大会に出て優勝すること（もう無理
だけどw）

5、男子1 . . . 遠藤 大地
性格 . . . チャラチャラしていていつも笑っているクラスの
ムードメイカー
みたいな人

凜華の過去

はじめまして私の名前は伊藤^{いとう} 凜華^{りんか}藤本高校というごく普通の学校に通っている

高校1年生です。といっても私はとても不幸体質ですが。まず、初めに小学校に入学してすぐに両親は交通事故で亡くなってしまって・
・そのあとおばあちゃんのうちに預けられたのですがおばあちゃんも1年もたたずに亡くなってしまいました。

なので私は不幸な子供だということでも引取ってはくれませんでした。その後は私は自分でアルバイトや年齢詐称などをして生活をしていました。

しかし！ある日「凜華を引取る」と言ってくれた人がいました。それが私のお母さんのお父さんでした。〃私のおじいちゃんですね。すみませんややこしい言い方をして・・・

私は最初おじいちゃんと一緒に暮らすのは嫌でした。なので「嫌だ一緒に暮らしたくない。おじいちゃんが死ぬの見たくないから」と言っ一緒に暮らすのを拒みました。でもおじいちゃんは「大丈夫おじいちゃんは死なないよ。」といって私のことを抱きしめてくれました。

まあ、そうして今はおじいちゃんといっしょに暮らしているわけです。「おーい凜華」遅刻するぞ学校にー！」あっこれがおじいちゃんです。てっそんなこと説明してられない。急がないと入学式に遅れちゃう！

「おじいちゃん」送って学校までー」ドタドタドタ「こら凜華もつと静かに階段を降りなさい！それにおじいちゃんは学校まで送ってやれないぞ！」「はい？」「ほら急がんかい」

「あ！行つてきまーす！」ボタンッ

危ない通学路（前書き）

すいません。地下鉄を電車に変えました。
あまり内容に変化はないのですが私が乗りなれているほうにしよう
と思います
代えさせてもらいました。

危ない通学路

「急がなきゃ入学式そうそう遅刻なんてありえない」タツタツタツ
タツタ、キキイー「おっと！」

家から出て5歩目で車に轢かれそうになってしまいました。「こら
っ危ないじゃないか！！！」

「すいません」ペコリ　つか今のは車のほうが悪いんじゃないの？
まあこのくらいならまだいいほうだな！もつとひどいことがこの後
起こるかもしれないからガンバロ！！

これから電車に乗っていくんだよな？学校に行くためには・・・
はあゝこの前受験の合格票のときは酷かったからなゝ乗りたくない
なゝ

何を言っているかというそれは合格発表の時までさかのぼります・
・

発表当日

「はあゝ受かっているかな？」

と思いながら電車のホームで電車を待っているといきなり・・・前
に並んでいた女性が飛び降りたのです。そしてその直後電車がホー
ムの中に入ってきて・・・この後は想像どおりです。

そしてその女性は亡くなり凜華は事情聴取ということで警察署まで
一緒に行くことになりました。

その後、受験の発表には警察の人に送ってもらい結果は見れたので
すが、

もう喜ぶことはできませんでした。でも、次の日にはケロッと回復
していましたが！普通の人なら

3日以上引きずるかもしれませんが、凜華の場合もう何回何百回と
見てしまっているため慣れてしまったのです。あまり慣れたくはな
いことですが・・・

ということだったので凜華はあまり電車には乗りたくないのです。

まあしかし通学のためですから、これから毎日のように乗らなくては
いけないのですが・・・

入学式

「よし電車にちゃんと乗れますように」　つと凜華は願いながらキタカ（知つてるとは思いますが

キタカとは北海道の電車で使われてる電子切符です）を取り出してピツとタッチしようと思ったが機械から発せられたのは「ピーピー」という音だった。やっぱりダメだったか・・・

「すいませんがそのお客さんちよつと来てもらえますか？」と駅員さんに呼ばれた。

「あつはい分かりました」

「すいませんがキタカを貸していただけますか？」

「どうぞ」

「すいませんお預かりいたします・・・あの磁石に近づけたりしましたか」

「いいえ・・・それ昨日買ったばかりなんですけど」

「そうですね・・・でもこのカードは磁気異常を発生していてもう使えないので新しいのを発行いたしますので少々お待ちください」

「えっ！！私入学式に遅刻しそうなんですけど早くしてくれませんか？」

「事情は分かりますがこれをやらないと電車乗れませんよ」

「じゃあ早めにお願ひします」

「分かりました今やっているのもう少しお待ちください」

「間もなく電車がきます。白線より下がってお待ちください」

「ヤバっこの電車に乗らなきゃ」

「出来ました！」

「どうもそれじゃ！」

「ピツその電車待つて〜」

「間もなく電車が发车いたします」ガタンっガタンっ

「あゝ行っちゃった・・・」これで遅刻決定！パチパチパチっ

10分後まで電車来ないしキヨスクでも行つてこよう！

10分後

「間もなく列車が到着いたします白線より下がってお待ちください」
ガタンッガタンッ

プシュッ

「はーやつと乗れたでもこれで遅刻決定だよな・・・30分もここからかかるし！なんでこんなに遠いところにしちゃったんだろう・・・ハ・・・」

30分後

「うーん！やつと着いた！席に座れずにずっと立っているのって30分もだと疲れるな」

てっこんなことしている場合じゃないもう遅刻だし急がなきゃ！！

〓 3

「はーやつと着いた！」疲れたももうなんで坂道の上なのさ学校が！

「おいっその生徒！」ビクッ？はい？私ですか？

「お前以外にだれがいる！」

「へへへですよーそれじゃ失礼します急いでいるので！」逃げる

！と思い走ろうとしたが・・・

「待て！！お前ここの生徒だろ！」

「はいそうですけど」

「もしかして新入生か？」

「はいそうですけど・・・」

「やつぱりか！入学式なのに遅刻してくるとはなめたもんだな」w

「あのいえ別になめていたわけじゃなくて・・・そのすいませんでした」バサバサバサッ頭を下げた瞬間に荷物が全て出てしまったのである。

「なにそんなに焦っているんだ？それよりお前バカだろ！カバン開いているのに下に向けるなんて！クツクツクツ」

「すいません・・・」

「いや別にいいんだけどさゝ入学式なのにこの多すぎる荷物は何？」

「あゝこれは私の標準装備？みたいなものです」

「これ全部！？」

「はいっ備えあれば憂いなしっていうじゃないですか！」

「いやまあそういう風に言うけどさこれは多すぎでしょ」

「そうですね？じゃあ明日から少し減らしてきます」

「いや別に無理に減らすことはないと思うよww」

「そうですね？ってこんな無駄話している場合じゃなかった入学式に遅刻しているのに！」

「あゝそれなら大丈夫！」

「えっ？」

「君もう入学式の会場にはいけないから」

「えっ何ですか？」

「いやだつて途中から入ったら気まずいしほかの生徒がざわつくということで入れないことになっているからw」

「えっじゃあ私があそこで走ってきたのは無駄だったってこと！」

「まあそういうことだねw」

「そんな〜」

「まっそんなに落ち込まないでほらクラスどこか見に行かなくていいの？」

「あつそうだった！それより先生？の名前はなんていうんですか？」

「私の名前は伊藤凜華と言います。」

「あゝそつえば自己紹介まだだったね俺はこの体育教師をしている鈴木と言います」

「へえゝ体育の先生なんだよろしくお願いします」ペコリッ

「あゝよろしく！w」先生めっちゃかつこいいんだけど凜華の体育もこの先生が担当なのかな？

と心ときめいている凜華であつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2318m/>

不幸な1週間

2010年10月28日01時01分発行